

[板橋区長賞]

税金の使われ方とこれからの未来

志村第四中学校3年

清原彩瑛

私達の身の回りにはたくさんの税金が使われている。例えば、学校の設備、水道、公園などがあると思う。知らないだけで意外なところに使われている税金があるかもしれない。

「学校のものは税金が使われているから大事にきなさい。」と言われたことがある。椅子、机、教材など様々なものに使われていることは知っていた。でもどれくらいの税金が使われているのか知らなくて気になったので調べてみたら、東京都歳出における教育費は八千六百三十六億円で、中学生一人あたりの年間公費負担額は百二十六万六千円と知った。こんなにもたくさんのお金が私達中学生に使われていると知って驚いた。もし税金がなければ今と同じような学校生活は送れないだろうと思った。だから、税金を私達のために使ってくれる国に感謝している。今は納められる税金は限られているが、将来社会に出たときは、その時代の社会のために、子供や高齢者のためにと、思って税金をしっかりと納めていこうと思う。

最近、私達の身近で多くの税金が使われている場面といえばコロナウイルス関係だろう。給付金などの制度によって助けられた人は多いと思う。今は多くの人の手助けをするため、社会を回すために税金が使われているが、この状況が収まって社会が回るようになったとき増税が行われるのではないかと思う。なぜなら、今使った赤字の分を取り戻すために多くの税金が必要になると思ったからだ。この状況が回復するのはいつかはわからないがその覚悟をしておく必要はあると思う。他の増税の原因としては少子高齢化が挙げられると思う。働き手が減り、社会保障費が増加する。そうすると、その分を補うために増税せざるをえないと思う。また、労働者不足に対して、外国人労働者を受け入れていくのかという問題もあるとニュースで見たことがある。一つの問題を解決しようにもまた新たな問題が出てきてしまう難しい世界だと思った。問題解決のために増税した場合、国民からの不満は少なからず出てくるだろう。でもそうなったとき私達は、その原因や税金の使われ方、大切さをもう一度考え、理解しなければいけないと思う。

このように、私達国民のために使われている税金は、何らかの問題によって増税していくことがこれから生きていくなかで何度かあると思う。そのとき私は、過去に自分も税金によって助けられていたし、その税金を納めてくれていたのは自分が子供の頃の働き手の人たちのおかげだったと忘れないようにしたいと思う。この作文を書くにあたって税について考えてみて税金についての問題は、社会問題に深く関係しているなと感じた。だから、税について考えることは、これからの社会全体について考えることに繋がってくると思った。税金は誰かのために使われていても巡り巡って自分のためになるようだなと思った。